鶯宿雜記

三百五十六
三百五十七

238
289
1

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

238
577
1

鷺宿雜記

三百五十六

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

尾張徳川家蔵書

蓬左文庫

蓬左文庫
尾張徳川家蔵書

蓬左文庫
名城内
駒井家蔵

於鳥宿雑記 巻三百五十六 草稿

秀忠公御上洛記 全

寛永三丙寅九月六日ニ 将軍家ノ二条ノ亭ヘ行幸アリ双

七日ニ舞ヲ叡覧アリ 八日ニハ武家ノ拝礼 夜ニ入テ和寺ノ

御會アリ 其御座配ノ次第ハ西ヲ細縁ノ錦ノ御褥ヲ敷テ

天子ノ御座トス 高麗縁ノ畳ヲ西ヨリ敷テ 大臣家宮門跡

公卿ノ席トス 戌ノ刻計リニ 天皇出御ニテ 左ノ方ニハ

左大臣源秀忠公御着座 御右ノ方ニハ 右大臣源家光公

御着座 御左ノ次ニハ 近衛関白御右ノ次ニハ 一条右大臣次ニ

一品次ニ三品親王次ニ無品親王次ニ准后次ニ二条

内大臣右ノ通大臣親王ノ座ニハ鳥丸大納言

着座次ニ右大将次ニ右大将次ニ尾張大納言義直次ニ
紀伊大納言頼宣次ニ駿河大納言忠長次ニ水戸中納言
頼房次ニ左ニ柳原宰相以上六人列座ニテ頭中将
基音朝臣灯臺ヲ持テ論師ノ四座ノ左ノ上ニ置次ニ
綾中路高右大ヲ持テ灯臺ノ上ニ置次ニ硯蓋ニ懐紙
ヲ入テ高倉中将嗣良朝臣ノ四座ノ前ニ置次ニ内大臣
席ヲ立テ論師ノ四座ノ右ノ方ニ着座泉中将為頼朝臣論師
ノ四座ニ着座泉右ノ方ニ四辻中納言次ニ日野大納言次ニ
中院大納言左ノ方ニ八条右大納言次ニ阿野中納言次ニ殿
上人四人南方ノ簀子ニ候ス内大臣読師ナレハ柳原宰相
懐紙ヲ取テ座泉ニ渡ス座泉論師ナレハ之ヲ請取テ高

ノ発声ス三条日野阿野中院寺ニ簀子ノ殿上人歌ヲ合テ
訖ヲ次ニ水戸中納言次ニ四辻中納言コノ歌ハ簀子ニ候ス
飛鳥井中将発声ス次ニ駿河大納言次ニ紀伊大納言次ニ
尾張大納言次ニ右大将次ニ左大将次ニ烏丸大納言次ニ日
野大納言次ニ三条右大納言次ニ内大臣次ニ前関白次ニ太閤
次ニ無品親王次ニ一品親王次ニ将軍家次ニ
左大臣秀忠公将軍家ノ御歌ハ五返読終テ座泉退出ス
内大臣ヨリ座ニ着ス関白御制ノ読師ナレハ座ヲ立テ上ノ四座
ニ着ス時ニ三条日野四辻阿野中院以上五人ヌレル関白
座ニ着テ烏丸論師ナレハ揖ノ座ヲ立テ
中ノ四座ニ着関白御前ニイサリ寄テ御制ヲ取テ四座ニ着

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

御詠ヲ扨キ夏テ烏丸大納言三度ス高ミトヨム西辻侍声ス
七返訓ス其内ニ烏丸李ノ咲ニ著咲揩筆テ　天皇ノ御時
ニ著咲ノ公御咲ヲ立テ拝メス如元著咲百テ次第ニ
下咲ヨリ退去事右ノ著咲ノ次第

正四位下行大学頭兼侍読菅原朝臣
従四位上行式部大輔兼侍読藤原朝臣
従四位下行左大弁兼侍従藤原朝臣
従四位下行左大弁兼侍従藤原朝臣

侍読治泉

工

工
口

発声　西辻
三條　日野
阿野　院　工　車

侍読内大臣

工

右之節御詠歌　但七日ノ御夜宮也

竹契遐年

御剣
ろかさりのそを仕へき当帝の主の代ゝを祝ひ奉りて

右大臣源秀忠

当帝の御代ゝまでと数ふる孔雀の尾の長御幸を
祝ひ奉りて

内大臣藤原信尋也

秀忠公御歌中ノ大
我おやにそひてそ祝ふ孔雀の尾のかそへ
ぬ千代を祝ひ奉りて

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

右大臣源家光
御幸ありて我大臣を招請まゐらせたまふ
従一位藤原信房　雅楽頭
若代も笑ひ栄ふる宮人の
右大臣菅原道真　一条
いとも多くの公卿の参りて天満宮を奉斎し
内大臣藤原道　二条
初春の花の宴をもよほしの折から武士をなぎ
従一位藤原忠通　九条
春をまつ梅のかをりも我君の
武部卿敦仁親王　八条

[illegal]

[illegal]

[illegal]

中宮大夫藤原実俊　西三条
兵部卿藤原宣子　冷泉
権右衛門督藤原定房　烏丸
右近衛権中将藤原季継　葉室
左近衛権中将藤原重家　九条
参議右兵衛督藤原兼光　柳原

美乃守藤原定照　若江院
右近衛権中将藤原基詮
西園寺
左兵衛督藤原公相　冷泉
従二位藤原定嗣　若江院
権右衛門督藤原為世　冷泉
権右衛門佐藤原為冬　冷泉
参議右兵衛督藤原公明　三条
参議右大弁宰相藤原経任　日野
参議左大弁宰相藤原為輔　日野
参議左中将藤原実世　三条
参議右中将藤原実継　三条
参議左中将藤原公敏　三条
参議右中将藤原公重　三条
参議左中将藤原実綱　三条
参議右中将藤原実夏　三条
参議左中将藤原実明　三条
参議右中将藤原実仲　三条
参議左中将藤原実治　三条
参議右中将藤原実雄　三条
参議左中将藤原実為　三条
参議右中将藤原実任　三条
参議左中将藤原実興　三条
参議右中将藤原実尚　三条
参議左中将藤原実守　三条
参議右中将藤原実胤　三条
参議左中将藤原実音　三条
参議右中将藤原実香　三条
参議左中将藤原実望　三条
参議右中将藤原実明　三条
参議左中将藤原実治　三条
参議右中将藤原実雄　三条
参議左中将藤原実為　三条
参議右中将藤原実任　三条
参議左中将藤原実興　三条
参議右中将藤原実尚　三条
参議左中将藤原実守　三条
参議右中将藤原実胤　三条
参議左中将藤原実音　三条
参議右中将藤原実香　三条
参議左中将藤原実望　三条

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

御進物之品々

一砂金 三十両 一銀子三千枚 一御衣三百領
紅糸 二百斤 油筒 唐織 梨地之蒔絵入三十棹
一御手本 通用筆 全ノ七枚有リ 一仗措 長サ二間中ノ々リ 四尺五寸アリ
一御掛物 中尊御言 両祖竜角 三幅對 枚法 筆
一蘭緒 石巻色々 一瑠璃 三十枚
一麝香 白銀大壱斤 カラニ入 一御太刀 一文字行平 二振 全国命ニ入
一御馬 十疋 鞍轡具 箱ニ入 一御鷹 一双 一疋 一御狩装束 御唐櫃 二合ニ入
一御寝御首 奥石 残色々 一御手判 一御書 一金ニ
一孔雀 御香炉 一金ニ 一御香炉 銀盤 三十枚
一御硯 四ツ内 二ツハ古シ 一鶴蝋燭立 一金ニ

一御墨子 二節 内一ハ白張モ形アリ 一御茶碗 二
一御硯 一御風炉 釜 一
一御衣桁 二内 一ハ張 一鉄(ママ)子 御膳立 御酒人前
一白銀御膳立 御酒人前 物数右ニ同 小数七十二内 カナイロニ 御肴弘一ハ白張 其外ハ皆金ニ

右之通 以上

将軍家之御進献ニ

一御太刀 菊一腰 金作 梨地蒔絵入 一御手本 金ノ七枚有
一詠歌 一部 行成筆 一子昌之 二ノ々イ 肉
一万葉集 廿冊 定家筆 梨地之蒔絵入 一御伽羅 十斤 白張紙ニ入 長サ二尺幅一尺二寸 高サ一尺五寸
一麝香 五斤 白銀ノ壺ニ入 一金 六十斤 大壺二ツニ入 紅ノアヒ掛ル

国立国会図書館 鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

一御衣石頭 利生地ニ而御備
金ロナカイノ長持ニ入
一金子弐千両 長持棹共ニ利生地ニ而御行 唐織ノ油単掛ル
一御馬 五疋 都合四疋 内
右ノ通 右ハ定秀忠公ヨリ御進上ヤ
一御衣 三十頭 長持ニ棹共ニ三荷 金カナカニ唐織油単掛ル
一御金 三百両 以上
右ノ通 御花豫ヨリ御進上ヤ
一白銀 弐百枚、
一御袖 五十ヲ一重地ニ而御備
一紬 弐百 ヲナまた
一綿 弐百 ヲナまた
右ノ通 右ハ御進上ヤ
一紅糸 百斤 以上

右ノ通 如院ヨリ御月見ノ御祝儀ニ而御進上ヤ
一白銀 弐百枚、
一御袖 五十ヲ一重地ニ而御備
一紬 弐百 ヲナまた
一綿 弐百 ヲナまた
右ノ通 右ハ

右同国隔通ニ女陰街ニ有
一 酒十枕 右同断 一百枚
一 酒十枕 右同断 一百枚
一 酒十枕 右同断 一百枚

仁和寺殿　勝万代殿　照万代殿　桜井殿　竹内殿
大宮寺殿　如住院殿　一条院殿　紙屋院殿　通心院殿
三宝院殿　右ノ門つゝ
一　白張五十ねこ　小砂十文　朝供ニ参内ス
一　紅女ねこ　小砂八百ねこ　日ねこ
沓ねこ　右ノ門
右面中将　舎人二位　中将　軍門従如此
冬家朝臣　ゝ家中二
一　白張弐百ねこ　小砂十順ニ
一　白紙十ねこ　小砂六ツ　奥ノ
四十ねこ　奥ノ　右ノ

一　白かみ七十ねこ　小砂十順ニ　大典侍
一　大口ばかま　ちなこ　長橋ノ
一　白かみ六ねこ　小砂六ツ　中門
一　口ばかま　車　右ノ
一　口ばかま　ちなこ　右ノ
一　白かみ六ねこ　小砂十　車　中門
一　口ばかま　いちこ七人　いとの　右ノ
一　口ばかま　車　いとの　右ノ
一　白かみ六ねこ　小砂六ツ　車　中門
一　白かみ六ねこ　小砂十　車　中門
一　口ばかま　ねこ　小砂四ツ　ちなこ　おなこ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

一 白々弐千ねこ 小弐千ねこ
一 日千ねこ 小弐千ねこ
一 白弐百六十ねこ
一 日 黄ねこ 白ねこ 無女中
一 日 わすねこ 中之ねこ 門ねこ
一 小弐千之 車 拉ぎ之もの
一 白々弐千ねこ 小弐六ツ 車
一 日三千ねこ 小弐六ツ 車
一 日三千ねこ 小弐六ツ
一 日弐千ねこ 車
一 小弐四 車

おまつ おまさ おまつ ちくご
いねうさ 山形くらと
おちや おいたくらと
女ども 人と 女僧 ひつかき 女人 かする
中へ下する
わすねこ 中之ねこ 門ねこ
ちんでんものくらと
白々弐千ねこ 小弐六ツ 車
玉子もの 大ふ 仕ものくらと
中仕もの 大ふ ものくらと
大盛ものくらと
ひくく下する

一 四ツ半ねこ 長つもの
一 弁当 ねこ 無女中
一 日わすねこ 小弐十 車
一 日三千ねこ 小弐十 車つゝ
一 日弐千ねこ 小弐四つ 車
一 日八千ねこ 女僧 人くらと
一 白々弐千ねこ 小弐十つ 車

紙もの 仕のもの 大ふの 品もの
きねもの うるしもの 何もの くらと

中仕 大ふ ものくらと
ちくもの 煮ねこ 仕ものくらと
大盛 ものくらと
女僧 人くらと
女院 御所 女中くらと
ものくらと
下さんものくらと 車
海部 ものの 御ものの
こかくらと

五摂家方 清華方 御門跡 方ゝ 御成 之節
雨天 次第 傘 行平 九徳 女 女僧 長上 一人 供 二人 女
守家 一人 供 二人 女 守家 一人 供 二人 女
雅慶 画家 助者 八人 女 雅慶 画家 信包 信包 侍者 女

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

次吉 三郎 守富 四郎 則富 次郎
長吉 同九 助依 伏久 来国光 中屋 五
助依 中つ 次郎 兼光 四郎 長光 水流 宇右 守家 九郎 国村 彫り 与右
西蓮 伊川 左 右七 七日 二条河原 於て 打首 長吉 鳥九 右 新蔵 立 中つ 次
一 七日 楽
万歳楽 地下二人 近衛 桑六人 左兵衛 左王寺 京
リンタイ 当姓四人 中住 信俊 兵衛 信俊 来国光 中屋 宇家 左兵衛 行平 備後 次
ミキテ 四人 左王寺 陰王 一人 左王寺 青海二人 住信 興化 信俊
納蘇利二人 右府 千秋楽 是ハ無事ニ
一 八日 御馬 九日 御能 山科の新蔵

ころこたるふの声人ちり我の
小山のわかまハ冬を後代み行てるまてやうなた
のありさまと言陽みける第代委ハ別てかなて栄
世の例をあり一せいわんの三事まて定のとれそそな
於の実相ろ一於もおものれ
更代のあてふかりるの
三事 新蔵 右 新蔵
七年 田村 右 春吉
七左 源氏供養 右 桜乃
三年 紅垂衣狩 右 春吉

大左九年 笛 左 三年
小新九年 左 右
大 笛長秀 左
大 又ハト 笛長秀
十新九ト 笛 長秀
大左ニト 左 右吉
小七右

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1
ガラス使用

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

ラ小作後守　小出信濃守　本多能登守
阿部伊理亮　高力左京大夫
松平伊賀守　土屋遠江守
布施飛人　戸田隅守
杉本左兵衛　川勝信濃守
仙石右和守　土方縫殿頭
那須長門守　牧野豊前守
稲葉山土佐守　石河伊豆守
秋月長門守　井上河内守
屋敷ニ而ハ　ハ庫ニ而ハ
相良式部大輔　屋敷ニ而ハ
一柳監物　松下石見守
松浦肥前守　池田備中守
溝口出雲守　立花左近将監
本多飛騨守　織田越後守
竹中丹波守　安部山左ヱ門
ハ庫ニ而ハ　屋敷ニ而ハ
本多能登守　高力左京大夫
土屋遠江守　布施飛人
戸田隅守　杉本左兵衛
川勝信濃守　仙石右和守
土方縫殿頭　那須長門守
牧野豊前守　稲葉山土佐守
石河伊豆守　秋月長門守
井上河内守　屋敷ニ而ハ
相良式部大輔　屋敷ニ而ハ
一柳監物　松下石見守
松浦肥前守　池田備中守
溝口出雲守　立花左近将監
本多飛騨守　織田越後守
竹中丹波守　安部山左ヱ門

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

推御随身　御牛飼　御階持　烏帽子着

御車
推御随身

御傘
下﨟御随身二人　御厩舎人　副舎人
下﨟御随身三人　舎人飼一人　副舎人

御馬
御馬副四人　長刀　布衣二人
布衣二人　屋傾大納言

馬副二人　副舎人　白丁五人
馬副二人　舎人飼　白丁五人

紀伊大納言　同上　駿河大納言　同上

水戸中納言　長刀　布衣二人　仙臺中納言　馬副二人　舁二人
馬副二人　白丁二人

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

傘持同上　加賀中納言　同上　薩ノ中納言　同上

越前宰相　備前宰相　會津宰相　長刀布衣四人

筑田中将　馬副四人　傘持同断四人　同上　豊前中将

義作中将　馬副四人　傘持同断四人　同上　長門宰将

仙臺宰将　因幡守　森右近尉　伯耆侍従

若狭守　毛利安芸守　井伊掃部頭　柳川侍従

山城侍従　中務侍従　此中務可考　伊達侍従　秋田侍従　對馬侍従

大野侍従　阿波侍従　毛利伊豆守　織田侍従　安藤侍従

西尾侍従　松山侍従　長刀　松平右近将監　布衣三者四人傘持　馬副四人布衣二人

肥後侍従　肥前侍従　松平右京亮　布衣二者四人傘持　副四人布衣二人

郡山侍従　長刀　松平土佐守

松平右近尉　生駒壹岐守　寺沢志摩守　水野日向守

松平丹後守　右馬頭　南信濃守　松平陸奥守

松平式部大輔

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

一九月九日勅使阿野中納言・烏丸中将ヲ以テ右衛門左衛
秀忠公左近衛大将ニ可有補任旨　敷虜ニ入御詰居（ト）ヲ
一御一門諸大名官位昇進之次第
尾張大納言義直卿之中納言
駿河大納言忠長卿之中納言
如加方中納言利常卿
薩ノ中納言家久卿
松平宮内少輔忠雅卿任宰相
木村長門守忠政　任中将之侍従
細川越中守忠利　任左中将之侍従
上杉弾正大弼定勝　同断

井伊掃部頭直孝同断
一侍従ニ任諸侯
浅野但馬守　伊達遠江守秀宗同断
京極丹後守　仙臺侍従　是松平陸奥守忠宗卿
堀尾山城守　鍋島信濃守
松平石見守　松平土佐守
松平阿波守　松平玄蕃頭
　加藤肥後守
　松平左近将監
　加藤左馬助
　松平中務大輔
一ニ任四品諸侯　生駒出羽守
松平阿内守　藤堂大学頭
松平右京亮　寺沢志摩守
松平和泉守　松平内匠頭
松平式部大輔　水野日向守
　松平丹波守
　南部信濃守
　有馬玄蕃頭

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1
ガラス使用

一行幸之時勅置馬相出之時之賞

五正尾張大納言　五正駿河大納言
五正尾張大納言　五正紀伊大納言
三正水戸中納言　六正松平陸奥守　十正松平筑前守
五正松平伊予守　六正松平下野守　五正松平宮内大輔
三正藤堂和泉守　二正井伊掃部頭　三正上杉弾正大弼
二正佐竹右京亮　一正南部信濃守　五正加藤肥後守
五正松平右京門佐　翌正浅野但馬守　六正鍋島信濃守
三正嶋津薩摩守　翌正細川越中守　三正松平長門守
三正松平新太郎　二正堀尾山城守　二正有馬玄蕃頭
二正松平阿波守　二正森美作守　二正加藤左馬助
二正松平土佐守　二正生駒中将　二正松平筑後守

二正本多豊後守　一正松平飛騨守　公下一正松平河内守
小笠原右近将監　本多中書　伊達遠江守　水野日向守
寺沢右京亮守　真田伊豆守　松平出羽守　堀田摂津守
岡部内膳正　陰山永左馬助　一柳監物　九鬼長門守
京極若狭守　京極丹後守　松平山城守　備中伯耆守
戸田左門　松平周防守　池田備中守　加藤出羽守
古田左近将監　小出右和守　立花飛騨守　伊東修理大夫
松浦備後守　有馬左兵衛佐　秋元但馬守　松平式部少輔
石川主殿頭　阿部備中守　秋元摂津守　井上主計頭
永井信濃守　毛利甲斐守　島津右京進　松平丹後守
牧野豊前守　脇坂淡路守　本多伊勢守　以上大名七十人
百四十正馬数

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

御即位記

一寛永七年秋九月十二日御即位ノ事アリ是去年ノ冬依ニ御位
ヲ弟一ノ皇女ニ譲リ玉フ昔左京ノ亭ニテハ数代オハセシカ
共此事江戸ニ於テ両石及ビ数百年ニ絶タリ玉ヒ驚カセ玉ヒ本朝ハ神国ニテ天
照太神ノマサシク姫神ニテ天津嗣ヲ万世ニ傳玉フトハ云
ヘ久ク絶タル御事ニテ其ノ後ノ代ニ御外戚ノ御勢ニテ係ル
モ有ケルヤウモト云シサセ玉ハンカ為ニ後ノ慮
リハカラセ玉フ又最メテクシ然ハアレト御脱屣ノ厳慮
堅クモノシ玉ハス強ク諫サセ玉フニ不及トモ角モ厳心ノ侭ト
思召ニテリヌ武家ヨリ梨事程ヲ出ス敢ニ玉フ他ニ異ニメ
頼朝卿ヨリ以来及ヒ御即位ノ事ニ其上御年モ壮リニメ万機政ヲ
厭セ玉ヒ玄ノ舜ニ譲リ舜ノ禹ニ譲ル昔ハ此御年寄ニテイマ
ヒシ然ニ今春秋富セ玉ハシテ始射ノ雲ヲ眺ノ谷水ノ
風ヲ玩ヒ玉ハンヤ然ルヘカラサル御計ニセト武家ニハ君召セモ
叡心ノ赴ク処ハ武家ノ政正シク明カニ公ケヲ敬ヒ玉ハンカ御事
帝ノ御ニテモ其扶ケ守リト成玉ハン最安カルヘシ此ニ遂ニ
下リ居サセ玉ハハ武家ニモ黙止難ク止ヲ得玉ハス去程ニ
預メ今日ノ御即位可有ニ定リ又依之江戸ヨリ為上使庶橋
侍従源忠世伯耆侍従藤原利勝右両人御路セラル敬ニ
其日ニ及テ儀式ヲ見行シハ大極殿ノ粧ヲ移テ紫宸殿
ニテ行ハル殿中ニ高座ヲ五メリ方一丈三尺行ニテ東西ヲシ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

長シ三方ニ階有テ南方ニ階ナシ其上ハ鳳輦ノ形ニ似テ八角ニ作リ屋祢ニ八葉有テ頂ニ銅ノ鳳凰アリ或ハ華ニ皆小鳳凰ヲスエテ八角ノ廻リニ鏡ヲ掛ル一ニモ有ト云リ中ニ經綱縁ノ畳二疊ノ敷茵二重アリ左右ニ安キアリ氈金ヲ載ニ為リ紫ノ帳ヲメクラシ掛タリ帳ノ後ニ白キ九帳ヲヒク八角外ニ縁アリ皆黒塵ノ群ニ獣形ノ幔ヲ打麒麟駱駝虎天祿師子之馬等ノ形ヲ画ケリ此紫宸殿南階ヨリ八丈許リ前庭ニ七本ノ旗ヲ立タリ金銅鳥ノ幢ヲ立三足ノ烏ヲ画ノ其車ニ朱雀ノ旗ヲ立青龍ノ旗ヲ立銅鳥ヲ画ニ月像ノ旗ヲ立象ト蝦蟇ト挂トヲ画ノ其西ニ白虎ノ旗ヲ立玄武ノ旗ヲ立蛇ノ亀ヲ画ニ形ヲ画ケリ此七本高サ各五丈許リ是ハ左近衛ノ陣也ト見ヘタリ肉角ノ長サ二丈車西ニ在

擂アリ又位記ヲ奏宣年ノ版アリ鼓アリ内弁ノ座ノ南ニ鉦鼓ヲ居テ其後ニ兵庫机ノ座アリ
内弁ノ座ノ外ノ西ニ外記官勘ノ座アリ其見エタル処ハ郁芳
門ノ位ヲ変サセ玉ヒテ百官万民
ニ始テ龍顔ヲマミエサセ玉フ御
ハ継体天皇ノ位ニ即セ玉フ寸ハ大伴金村大連跪テ三種
神器ヲ奉テ再拝シ寿宮天皇ノ御時ニハ大伴長徳連
金ノ鞍ヲ帯テ高御座ノ左ニ立群臣圜結ノ天子ヲ拝シ
奉ル陽成院ノ御寸大極殿造ラサレハ豊楽殿ニテ即位
アリ冷泉院ハ紫宸殿ニテ即位アリ後三条院治暦四
年ノ御即位ハ太政官ノ廳ニテ行ハル是モ大極殿回禄

ノ后ヨリ造作ナキ故ニ後鳥羽院元暦元年ニモ太政官ノ
廳ニテ即位シ玉フサレハ其所ニ依テ高御座ノ形モナシ不
同有トカヤ仁真日時ハ兼テ陰陽頭ニ仰テ勤ラレ又擬
侍従宣年使典侍大将代寮寮帳女王礼服ノ公卿ノ数
ナトヲ定メ又御即位ノ由ヲ伊勢大神宮ヘ申ス為ニ奉
幣使ヲ立ラレ神祇官ニテ行ハル儀式ノ由奉幣ト申ス
ハ此度ノ今度ニ勅使ヲ立ラルヽト云ノ意ニシ内弁ハ二条右大臣原
通公ニ束帯ノ出テ陣ノ座ニ着テ揖ヲナシ座定テ陣ノ
官人揖田ヲ召テ細声ニ仰アリ官人胙奠ヲ数テ唱ヲ直ス
又大内記ヲ召テ宣年ノ二ヲ仰ス大内記五条為適参テ
胙奠ニ居テ仰ヲ受テ出ヤ内記宣年ヲ筥ニ入テ捧出テ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

膳奏ニ居テ内弁ニ前ニ置箱ハ
有内弁杖テ口ノ中ニテ一反ヨム其間サ内記頭ヲ垂テ平
伏又読畢テ又内記中ノ柱ヨリ東ノ方（通リテ出ル内弁又
右大弁ヲ召又今日ノ戦事勲修寺経廣来テ膳奏ニ居テ
箱カラ宣命ヲ採テ出テ清涼殿ニ参テ摂政ニ前ニ
置摂政一条右大臣兼通公蒙テ東帯ノ清涼殿ノ鬼ノ
間ニ着座又内豎ヨテ右大弁ヲ召又常ニハ清涼殿ノ妻
戸ノ下ノ透間ヨリ宣命ヲ入ル内侍取テ参賢メ又妻戸ノ
下ヨリ指出ス今度ハ摂政ノ内豎行リ
右大弁是ヲ取出テ又陣ノ座ニ行内弁ノ前ニ置テ退ク又
内弁又大内記ヲ召又五条為遠参テ宣命ヲ受取テ出

此宣命ヲ今日御即位ノ日ヲ百官高民ニ告聞シメル由ヲ
内弁出テ休幕ニ入ル今日内弁ニ供奉ノ随身布衣各一人ヅヽ
内弁ハ即位ノ間ノ日ノ司ノ戟ヲ取リ休幕ニ入ル
カ今ハ別殿ニ有ト云ヘリ大内記参テ宣命ヲ進奉ル則宣
命使ノ元ヘ是ヲ送ル此間ニ摂政紫宸殿ニテ祖式ヲ見
ヨヲヲリ左右大将代車ヲ列ス
是ヲ乗陣ト名日中務省儀衛ハ近代者カレクリトモ
左大将代ハ平松時庸朝臣右大将代ハ西洞院時良朝臣
其礼服ハ武礼冠浅紫ノ闕腋袍裲襠腰帯白袴螺
鈿細太刀平緒胡簶靴今度又大口ヲ着クリ随身二人
布衣二人ヅヽ裲襠ハ袖ヲナキ歩掛ヲ云シ中将代ヲ将代ノ

ガラス使用

礼服ハ深キ緋ノ襖ニ其外大方大将代ニ同シ次ニ近衛次将南階ノ東西ニ列ス左ハ靫負尾中将藤原隆豊ニ朝臣摠司中将藤原隆朝ヲ任ス雖ト将藤原宇種右ハ庭田中将源重秀朝臣插口中将藤原信春朝臣小倉左将藤原公根六人各胡床ニ著其礼服冠緌(ヲイ)両腋服掛(ヲヒ)甲白袴(ハカマ)韈(シタヒ)螺鈿(ラデン)剣手緒ヲ矢ニ内蔵大舎人大蔵掃部寮ノ官人各威儀ヲ取テ幸撫陳ノ北ニ列ス左右近衛左右衛門隼人各其属官率テ列立ス但近代ハ外衛ノ将ヲハ略セラレケルトカヤ其次ニ主殿ニ人図書ニ人各三山冠ヲ戴キ白結ノ服ヲ着シ青衣白袴ヲ着テ後ニ立ツ内豎ハ青キ垂ノ如シ錦ノ襷(タスキ)鳥皮(ノリカワ)ノ沓ニ但冠ハ位ニヨリテ品アリ今度五六位ノ冠ナリトカヤ此ノ内弁ノ御相各庭ニ着ノ床アリ諸伎(ギ)伎相倫(ナラ)ヒ同ニ内弁ノ大臣休幕ニテ礼服ヲ着ス玉ノ冠深紫ノ大袖小袖浮線綾(ウキヌヒ)褶白袴(ハカマ)倭帯(ヤマトヒモ)地紫ノ長絞(ナガオビ)袴絞ニメリ玉珮一連笏小帷子下襲表袴奉大臣ノレモ青ノ如シ錦ノ襷(タスキ)鳥皮(ノリカワ)ノ沓ニ但冠ハ位ニヨリテ品アリ今度五六位ノ冠ナリトカヤ此ノ内弁ノ御相各庭ニ着ノ元来庭速ノ不同ナキニ非ス其次ニ曲後五条ヲ納言菅原為遠賀者二人ヲ率テ庭上ノ版ニ着其礼服ハ外弁ニ同シ賀者三山冠ヲ戴キ赤袍黒袖ヲ着ク薄縁褶表袴浅沓ヲハク一人ハ音袍ヲ着ク若諸司庶々ナルヘシ其携杖ハ是ヲ促スニ依テ外記時至リヌルヨシヲ内弁ニ申スニ内弁出テ幄ニ入テ元子ニ着ク其歩行ヲ子リ足下ヨリ申トカヤ外記

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

官務兵庫乃芽出テ幄辺ノ床ニ著内弁陣ノ官人ヲ召テ外弁ヲ召ス召ヲ上卿ミラル兵庫乃鼓ヲ打ツ上卿ミラル兵庫乃鼓ヲ打ツ九声ニ於テ東西ノ腋ノ戸開ク次ニ伴氏佐伯氏五位ノ礼服ヲ著テ大刀ヲ帯ス訓三人ヲ率テ南ノ左右ノ胡床ニ座ス此間ニ天下清涼殿ニ行幸アリ帯剣ノ五衣裏生衣(ウブギヌ)ヲ白猪好(シラヰノコ)ノ掌衣(タナゴロモ)ヲ御表著(オモテキ)是モ裏生衣ヲ唐衣御裳(カラギヌモノノモ)ヲ宝冠ニアラレアリ纐纈(ユハタ)紅ノ御袴扇蝶鳥ノカナメ花菊松ノ二十結ビノ糸ノ緒アリ此御装束ヲ改テ礼服ヲ召テ宝冠ヲ冠ル是ハ日形ノ御冠ヲ白服大袖小袖裏共ニ生衣ヲ白猪好ノ御褶御裙帯長綬二筋玉飾二流錦御靴御笏象牙ヲ以テ作リ衣龍ヲ召ヒキ御ヲナヒテ女帯ニテマシテセハ古代ノ例ヲ任セ白キ御衣ヲリノ作法アリ戦事御礼服ヲ著御政伺候シ又可然公卿一両ヒ事仕奉ル今度ハ此表ヲ著セヒヲ礼服著御ノ後ニ御手水ノ下アリ其役人並ニ大炊御門ノ上ノ間ニカケ度ヲ女房勤ル此寸内弁庭ヨリ出テ清涼殿ノ南階ヨリ登リ磬鬼ノ向ニ伺候シ手先ヲスヘキテ朝餉ノ参リ御帳ノ一位ノ御座頂ノ下アリ揖政先立テ高御座ニ入テ事ノ粧ヲ催ス其次ニ執剣ノ女儒六人東西ニ相分テ床ニ著ノ其礼服ハ褶衣日像褶裙帯領巾鞋(カラクツ)著アリ今度繧衣唐衣裙袴著テカニホシ色

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

々也寝帳ノ傍婦二人着坐ス左ハ女王白川娘ト王姓ノ娘ヲ用ル故ニ女王ト号ス右ハ典侍丹露寺ノ娘ト其礼服ハ藤芳ノ大袖小袖褶領巾位験腰ト位験ハ冠ナリ位ニヨリテ品アル故位験ト云ヒ又威儀ノ傍婦等共ニ單唐衣女衣表着袿カケヲヒ裙ヲ指テ檜扇ヲ持ツ簪平敷頭平額先額ト其次ニ擬侍従月花門ノ服ヨリ入テ七本ノ旗ノ前ヲ通リ大将代ノ後ヲ歴テ車階ヨリ紫宸殿ヘ登ル是ハ左方ノ侍従三人ト右方ノ侍従三人ハ軒廊ヲ歴テ西ノ階ヨリ堂上ニ登ル左ハ滋野井宰相藤原季吉竹内刑ヲ補源存治朝臣東坊城ヲ納言菅原長維朝臣右ハ中山宰相藤原元親竹屋宮内卿藤原光長朝臣西坊城ヲ納言菅原長朝臣此六人ノ礼服大略内弁ニ同シ太刀ヲ帯クルナリ各南宮ニ出テ相揖メ廻テ南ノ屏ノ西ノ矛ニ向テ進ノ内ニ入テ鋪上ニ立テ相対メ揖ス侍従ト六天子ノ左右ニ侍テ指遣補ノ戟ヲ司ル三ヨリ其戟有ト云ヒ即位ノ寸ハ其一日可然人ヲ撰テ其代ト為ル二依テ擬侍従ト八名ノミ或ハ三位四位ノ人ヲ用ヒ或ハ親王ヲ以テ三位ノ侍従ニ用ル也云云又左右ヲ納言各一人ヲ用ルコモアリ此ヲ侍氏佐伯氏ヲ以テ門ヲ開カシム内弁並庫ヲ仰テ刀祢メス敬ヲ与シム諸門ノ鼓ヲ打ツ此次ニ外弁並ノ公卿坐ヲ記テ月花門ヨ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

リ入テ承明門ノ服ヲ出テ南門ヨリ入テ殿位ニ着承明門則南門ヨリ也着ニ帳ノ南ノ築地ノ傍ヲ通リテ南門ヨリ入ナリ月花門ヲ不通外弁六人八日野大納言資勝正親町三条大納言実有廣橋中納言兼賢柳原中納言業光西洞院宰相時直鳥丸宰相光賢其礼服各内弁ニ同シ位ニヨリテ差ス一シ此内ニ廣橋中納言今日ノ宣命使タリ列立ノ法異位重行也ト雖モ是ニ於テ揖政戦事ヲ整ヲ是一シ其次ニ諸司益威儀ヲ整ヲ是ニ於テ揖政戦事ヲ吉時ノ刻限ヲ申ス亥下午三及テ天子後房ヨリ此余宸殿ヘ成セラレ玉フ今度清涼殿ヲ以テ後房ニ用ル其間ニ莚ヲ通ニ數揖前ノ命婦左右ニ相並テ進ミ行

宣勅ヲ左ヨリ勾當内侍是ヲ捧ク長橋ト号ス神璽宝剣ヲ右ヨリ藤ノ内侍是ヲ捧ク此余ハ略ス天子御歩行ニテ莚道ノ上ヲ成セラレ玉フ他人此莚道ヲ踏ヌ様ニ揖政御路ニ候ニ蔵人頭園中将基音朝臣御劵ノ箱ヲ取テ供奉ス先立ル命婦高御座ノ後ノ男柱ノ手ニ留テ立ツ内侍等後階ヨリ御帳ノ外ノ壇上ニ候ス高御座ニ入セラレ玉フ寸蔵人以御劵ノ箱ヲ宸ノ女ニノ宸女ノ寒衣ケル上ヨリ授ケ今度ハ一ツ帳ノ東ヨリ勅ヲ御坐ノ左ニ置又一人進テ宝ヲ右ニ置名退キ下ル或ハ着御以前ニ勅宝ヲ置下モ右ト云リ蔵人以勧修寺経廣御鳴ヲ取テ階ノ下一処ニ置

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

此時年婦ホ退テ北ノ庇ニ候ス摂政長ノ方ノ向生ニ著此
於テ今日ノ傳奏清雨寺中納言共房ヲ以テ内弁ヲ召ス
内弁朝餉ヨリ出テ長橋ノ通リ南殿ノ後ノ妻戸ヨリ
入テ高御座ノ後ノ階ヨリ上リ右ニ廻リテ帳内ニ入テ北面
ノ御傳授ノアリ其ノ事畢テ又庭
上ノ幄ニ入ル無庫ノ寒衣帳鉦ヲ入ヘキ由ヲ申ス内弁ホシ
メヨト仰スヤ丁ニ声此ニ於テカ儒右ノ手ニ執笏左ノ
手ニ扇ヲ持母屋ノ東面ヨリ斜ニ南ニ出テ笏ヲ正ク
長跪笏ヲ短笏次ク如ニナラ(リ)
捧ル丁ハ雲伐撮ク見(サセ玉)フテ為シ長キ圍扇
様ナル物ニ柄ヲ付テ高ク サシおフシ寒衣ニ入東面階
ヨリ登テ南ノ擁干ノ内ニ進テ御帳ヲ寒ル八文字ノ形ニ
向テリ寒衣ヲ畢テ坐ニ復ル執笏ノ如ク笏ヲ正ク
退テ坐ニ復ル下﨟先ヲ退ク今度此寒衣殿ノ縁ノ東
面ニ笏ヲ正ク承塵ニヨセロケテ立タリ此ニ於テ雲伐
始テ見(サセ玉)ヒテ人ニ寵勅ヲ蒙ル笏ヲ正ク執伏ノ官人
敬言ヲ称ス先ヲオフシ式部面伏シ礼服ヲ群臣諸
折ス膝ヲ屈ルヲシ此時主殿
圖書立テ香合ヲ以テ三度香ヲ焼其烟天ニ上ル位ニ
即セ玉フヲ告ル焼香シ濃帝即位ノ壇ニテ柴ヲ
焼テ天ヲ祭ルモ此心ナリ今日天気ノ快ク晴テ九重雲
モ色ヲ変シ吹風寝ニメ春ノ如クナレハ左近櫻モ時ヲ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

ス花咲ヤウニ賢ヘ右近ノ橘モ礼服束帯ノ人ノ袖ノ香ヤ
ラント怪シキ程シ増テ日前ノ紅葉モ折カラ今一入ア
ザヤカニ見ヘタリ寔ニ天ニ叶ヒ地ヲ御ス位ナリト人ニ崇
メ奉ル次ニ典侍再拝ス賢シ美ナリ賢ハ典侍ヲ助ル
モノナリ群臣再拝ス武臣ハ拝セス内弁ハ始ヨリ立ツ
コトナシ次ニ宣命使敬ニ著テ開キヨム黄紙ヲ以テ
是ヲ旨リ詔ニ云

現神度大八洲所知須天皇我詔旨良方止宣勅乎親
王諸王諸臣百官等天下公民衆聞食度宣掛
畏岐乎安宮ニ御宇志倭根子天皇我宣此天日嗣
高座之業ヲ掛畏岐近江乃大津乃宮ニ御宇志天
皇乃初賜比定賜法随尓仕奉度仰賜比授賜布大命乎
受賜利恐美受賜利懼進世不知尓恐美坐久度宣天皇
勅乎衆聞食度宣坐皇度咩佐比天下賜君者賢人乃良
佐乎得色之天下乎者平久安久治賜物尓在度奈聞食須故是
以大命坐宣咲雖拙劣朝臣王等乎始色王等臣等乃相
兄奈比奉利相扶奉ヲ事尓依色此乃仰賜比授賜偕食聞
乃天下之政者平久安久仕奉倍志度所念須是以正直之心
色天皇朝廷乎衆助仕奉度宣天皇勅乎衆聞食度宣
此宣制一段ニテ群臣再拝ス又一段ニ到テ群臣再拝ス旨
モ讀ム休由シ詔モ宣命モ宣制モ此ノ天子ノ仰ヲ云リ
此ヨリ武官モ立テ旌ヲ振テ万歳トヨバウ宣命使参列

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

二候ル此次ニ式部丞記者ノ位記ヲ叙人ニ授ル
アリ今度ハ此儀ナシ典儀再拝ス賛者後ノ群臣又再拝ス
訖テ左ノ侍従代滋野井宰相藤原季吉儒行シ勝行
シ巡シ進テ御前ニ向テ笏ヲ引テ礼畢ト唱フ其声
高長シ是ヲ日ノ大礼事畢ル由ヲ奏スト心唱畢テ退
テ元ノ如ク列立ス典庫及庶
ニシト申ス内弁サシメヨト仰ス此ヨリテ鉦師ニメサシム女
儒進テ酌ヲ捧ル丁始ノ如シ命婦進テ御帳ヲ垂ル
又始ノ如シ諸仗官躡ヲ称ス是ヲ先ヲオフフト心寮従
ノすニ敬言ヲ称シ帳ヲ垂ルルヲ称スルハ天子出ル
敬言ヲ心ルすニ躡ヲ称スルノ儀シ命婦又本ノ座ニ候ル
天皇後房ニ入御シ玉フ摂政取テ蔵人ニ持シム蔵人ニ御
剣ヲ奉ル内侍進テ剣璽ヲ取テ供奉スル丁始ノ如シ典侍
起テ刀祢退ルノ故ヲサントヨト申ス刀祢ハ六位ヲ云ヒ内弁ヲ
シメヨト仰ス故師故ヲサフト心ヒ
忘ス外弁退出シ擬侍従退下ル命婦女儒等退入ル
内弁退出セラル群臣皆能去ル伴佐伯ノ両氏ノ刀ヲ以掃部
寮ヲ撤ス諸衛鉦ヲサシ声ヲ以テ各陣ヲ解ク今日九条鷹
司両傳奏三条内府中院大納言其外月卿雲客着ス
御廻ノ拝ニ奉ル御前ノ次第ハ公任ノ記行成ノ記江次第ニ依
拝シ奉ル御前ノ次第ハ公任ノ記行成ノ記江次第ニ依
兼良公ノ筆記ニ有ト承ル所橋侍従佐倉侍従ニ密カ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

三參テ拜シ奉ラルトきく叙爵侍從周防守重宗ハ京兆ノ
所司代ナレハ士卒ニ令ノ敬言固セラル見物ノ貴賤庭上ニ充
滿スル退散ノ後一庭橋侍從忠世佐倉侍從利勝周防守
重宗施薬院ニメ壯衣束ヲ改メ内裏ヘ參ラル兩傳奏先
入テ參ス今度ノ御使ヲ賀シ申サル、將軍家ヨリノ御使
一庭橋侍從進ミ參ラル黄帝ノ御太刀ニ御馬代白銀千兩
進セラル院一帝ノ御太刀御馬代白銀五百兩皇太后ヘ同
五百兩進セラル大相国ノ御使佐倉侍從參ラル御進物
ノ目録何モ前ニ同シ此外白銀千兩女官中ヘ配リ玉フ皆
是慶長十六年ノ例せトノ因ヘラル一庭橋侍從佐倉侍從
天盃天酌玉ハリテ退出セラル庭上大納言ノ使者竹腰山
城守紀伊大納言使者安藤帶刀駿河大納言ノ使者鳥井
土佐守水戸中納言使者中山内記皆上洛メ各傳奏ヲエテ
進物ヲ捧ラル其外諸大名御悦ノ捧物アリ官位ノ尊卑
ニ依テ差アリ乃至倉封十万石以上ノ人差ノ皆捧物ヲ
奏ラルイトモ質ク出タシ羽五日中院大納言ヲ改テ日野大
納言ヲ傳奏トス三条内府ハ元ノ如シ此月廿七日勅使
兩傳奏衣冠ニテ一庭橋侍從佐倉侍從ノ許ヘ立向テ
名作御太刀并寮ノ御馬ヲ各ヘ玉ハリケル八兩侍從モ世ニ
秉ヲ粧テ対面シ其賜ヲ戴キ庭ヲ申サル其生
ヲ敢ラルノ余リ八其使ニ及スノ礼ヲ失ル一ニ昔唐ノ女禍氏
八伏羲ノ妹ニテ天下ノ主トナリ宋宣仁皇后ハ簾外ノ政

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

ヲ開我朝ノ神功皇后ハ誓田天皇ヲ守立玉ヒ上宮太子ハ
推古天皇ノ扶ケトナラセ玉ヒ依テ此公ヨリ於海公忠仁公昭宣
公ナトニ至マテ一人ニ師範トナメ四海ニ儀形タル先哲多
カリト雖今度武家御譲ノ御心イトモ貴キ御事ニ
無ニ斯メテ度御即位ノ時至リ自ラ天ヨリ捧奉ラル
又モ武モ備ルトテ国家ヲ治メオサメラス御威名ノ弥天地
ト久ク傳ハリ日月ト鏡ニ照シ玉ハンケニ目出タカリケル事ニ
ナリト人皆申アヘリケリ
御即位記終

一寛永七庚午年九月十二日ニ即位人王百十代女帝御諱ヲ子
詹仁ノ御ス八歳ニテラセ玉フ是前帝ノ姫宮ナリ
集朝云御即位ニ有寛永十甲戌年

家光公御上洛之記八藏書君臣言行録ニ全ク出ル
委ニ看ク言行録ニ右御上洛御参内ノ記ヲ記シ民事繁ケ
レハ看ク右之抜書ニ通春之記シ玉ヘルカ如シ

一寛永十甲戌年七月十日
御参内之記 玉露叢

道春草案

秋の月ほのぐらきにかすかなるかげのまよりもる
ひかりかな
ゆふされはかどたのいなばおとつれてあしのまろやに
秋風ぞふく
あかなくにまたきこほろぎなくなへにやどもる月の
かげのさやけき
ひさかたの月のみやこにすむ人もわれのごとくに
ものやかなしき
ながめつつおもふもさびしかりけりいつくもおなじ
秋の夕暮
あきのよのつきのひかりにてらされてこころすみぬる
ものにぞありける
ひさかたの月のかつらもおりてけりこよひの空の
ひかりみるにも
あきのよのつきのひかりにてらされてこころすみぬる
ものにぞありける
天王武王成王ヲ代々ノ御事ニ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

て礼典を創作し五日ヶ四十日ヶ百年をたてて孝王の孫子布攻百世ありそうえり儒教宗教も茶創の君臣ともいえども文帝仁宗ニ永を守成する迄て永百年春下をおさめり我朝六拾王よりも八幡大菩薩より孝治の政事をもちいて伝いまいらせて孝下を守り代々おさめたもう陰徳の右高大なり先てまず後等持室管領死ぬ

申刻登城して年始の御祝儀を申す依例正法院
殿御前の御つゞきをもつて御礼申上る
右行事をめして来ル八日今度御即位
ごと行を以て小御所にて小松中納言殿
御通ゟまず土御門殿ゟ法性寺殿御出ゟ
神祇官ゟ礼服をもつて
お政所ゟ住ノ江ゟつゞきて小土井右松沢酒井
殿仗寺板倉周防守ゟ言上ノ御答ありて
ゟて勅使院使をもつて又厳重のおことわり
ゟすめのゟ無之ゟて二代将軍幕府ゟの
モ芽出度ゟを述ゟ二代将軍ゟの御答ゟ
右御所をまもるの武士ゟ西洞ゟなら
ぬゟまで心を一ゟりゟ
宣ハ光代濃高尚崇おけ
ゟまゟまゟゟゟ
えゟの一筆のゟねた形の
を書ゟ中ゟ抜ゟまゟ
ゟたゟゟの浄り芝ゟ
を以て事ゟゟ後世ゟ
宣位勲ゟのゟ警
ゟて落情のゟゟゟ
刈国宣ゟありゟ光祖の御意をいゟゟや

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

とおり等もあるや仏祖の古例院の古例法
もーさ〻皆法のとおりとも〻たとえをとるなどこれ義云
の三の自然おを敬大尾ふ任をーかた例なく吹て
かようよ社儀ーおよ尾をまいりくーたの
と人皆悪ーする日いまさ中をさ小ひふくーまる
月いまさみいまし小がうるあーこをおけるふ
無常の暮ひめーー周忌旦小文王ば子成王ば叔父
をも天下基こをを後ーー朝宣こ小皇后の足今止の
外常をも世人ー貴をおかくうまし盛
芽吉ば長くーよふ地と並ふ功なるーー井
鈔尾下りて松平要蔵ふ尾小寺右馬之書状が義武ア

ナ浦藤壹大夫ふ松平澄ば守保科紀伊守ふ多
甲斐守ふ侍従ふ任ーー両井阿波守小笠原右近ふ史
松平弘中守松平紀伊守松平周防守牧野右馬允
石川左ふ戸田左つ新ー
大りふ及ーお行差ふ
中両ふ小御供ふ
ふ辰刻よ西御ーー
指図御行列ふ
御屋敷小吉良左
釈ふものやまーうふ
集ーてけふおのくまお

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

士芸かたりて街砌とせ
右仰言水戸中納言も街
好して街芸可街く藩街
王家大臣家諸侯等して
を上屋添風へ出街有ら
をりき万事の盛衰
教庭をもちもちれ
かニ家の門て将軍家
らを治め街治の二献
て院参等過ぎ右仰言
外法会皆かち出て
六人と共敬勝仰
より仙洞御所
拙家ありて街気色
治陽の水流れて
花々て白玉川の街
瓊樹の枝もあり
れ花白しきさま
そうく街盃めぐ
晩景及んで二條の
好のごとし九ツ
人々右仰言より

ガラス使用

馬を飛し街衢に警蹕して
後又迎へて今殿御園中に住せよと勅命下院宣
三ヶ度に及ぶといへども固辞して憚ら
ざりしが其年の冬又重ねて仰せ被ければ
遂に参内して拝舞を奉りぬ
爾より後は毎日の如く参内して
御物語ありしが四月四日右中弁
宣隆朝臣を以て
勅使として
御剣を賜ふ
其後も
勅使頻りに来て
御剣を賜ふ事三度に及ぶ
藤蘭花羽根の
御紋の
御幕を賜ふ
御家の
御栄誉
此上もなき事也

若干の物を送り
御剣の
勅使に
宣下の
宣旨を
家司に
伝達の
ため
参内
御剣を
賜ふ事
三度に
及ぶ
拝舞を
奉る
御剣を
賜ふ
勅使
御剣の
御紋
藤蘭花
御幕を
賜ふ
御家の
御栄誉
此上もなき事也

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

まゐらせ候ようにとの事に候
数を越すまじく候へども
律令の外まで候ハゝ
あるべからざるや

一
正保四年黒田筑前守忠之へ御奉書ヲ以テ所謂
船ノ事、高中ノ候ト雖モ
ハリ一ツ

一毛ヲ惜ンデ身ヲ亡ス
則到着表裏相違ナキ事
ヲ依怙ノ色
以右ノ趣ヲ
行ヲモ
人数ノ
ノ動ヲ守ルノ

八月廿日
黒田筑前守殿

右ハ正保四年六月四日ニ硫黄
十六日ニ長崎ニ着津ノ八月
筆初ヲ玉露叢ニハ此一件
メリ然ルニ黒田家ノ御奉
霜ノ后又モキテミン名ニシテ

一正保四年十月六日ニ北山ヘ御幸
ハ一サコソヤシキ同紅葉ハ

今日ノ御幸ハ喜侍ノ御為ニトヤ誠ニ未ノモノモ千世ヤシ
ホノ岡ハ八十ラスモ心アリカホナリ　聖護院道見法親王
心シテ今一タニノミユキフル山ノコノハヤ深残スラン

一　慶安四年四月廿日　大猷院御他界同日ニ堀田加賀守
正盛行年四十六ヲ阿部対馬守重次行年三十三ヲ　右ノ三老東ノ面ニ殉死セラレケリ
加賀守正盛ノ辞世二首

行先ハクラクモアラシ時ヲ待イ浮世ノ塵ヲ曙ノ空
サリトモト君ニ仕テモ夢タシヤ何ヨノ世モ良見ナラフシ

同久正盛ヨリ松平伊豆守信綱へ送ラレケル哥
出ル日ノ光カナラニ改コト君ノ御代ヲハテイトノ綱

對馬守重次辞世ニ
惜ニテモ猶ヲシムヘキ月ナレ共物故
同重次陰臣追腹ノ面ニ美濃井頼母四十ヲ
山口主馬丞鉄木左衛門助ノ三人ナリ
信濃守正信辞世ニ
雲ノ上ニ久シカルヘキ月影ノ光消ヒト聞ノ悲キ
同正信ノ家老追腹ノ所望ニ付山主殺ス
信濃守正信ノ左女ハ御城中ニテノ上筋衆ノ乃也其名
ヲハ於古トヤラント　家老公御他界次ニハ息男ノ
信濃守ノ殉死致サレケレハ息女ハ死スヘキ寸ハ此時ニ
トテ今年二十三ヲヲニテ自害シケリ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

一同廿日ニ奥山茂左門殉死ス是ハ十八番頭ニ並テ三千石
御門ノ御気色ヲ蒙リ有シカ来世ニ於テ御取立ノ義
ハ一年限ノ由申ニ置シトナリ
重郎ヲ始言行録ニ大猷院御他界後偽名ヲ称ス
一寛文三年禁裡院中御造営事終テ御帰国ノ御法ヲ三
井寺ヘ仰セ付ラレ六月一日ヨリ是ヲ償リ跡ニ及フヘ
諸公家群参ノ儀議アル処又一日ニ
有テ向後ニ至テハ何ニモ不及大法ヲハ厳重ニ可被仰付ト
勅諚候間此度ノ儀ヲハ先ニ園城寺ヘ勅行致サレヘキノ
旨左ノ如ク霜輪ヲ添テ仰下サレ御供寺大納言ト近侍寺ノ
三門跡ノ副状ニテ事落着ノ此御奉詞ハ則
仙洞御所

遊ハサレトナリ

一 安楽ハ法ノ実相ヲ
勤行ス
二 云々庵室乃
山門ヨ
三 集勤シ例
ハ組換ヘキ

四 よい一そ
ものの
あすを
五 山門ハ
ロケのお法
六
七
八

九ゟ
ある
つき
ゟ
いた
土 禁裏
法中
十一 遣
ゟ
書ハ
八 西遠
ゟ
ハ
十 世
ゟ
七 ばん
ゟ
これ
ゟ
こゝ
ゟ
ゟ
古 ゟ
ゟ
ゟ
ゟ
ゟ
ゟ
ゟ
ゟ
十七 例
ゟ
ゟ
ゟ
ゟ
ゟ
ゟ
ゟ

一 寛文六年六月當有馬玄蕃頭頼利卒去行年十七歳
室八松平讃岐守頼重ノ息女ナリ此奥方ノ悼ニ
(一短夜ノ)
ウタ八子ノ松ニ月八残シ氷ノ影ハトマラス
心カラ千筋ト捻シ黒髪ヲ今一筋ニキルノ悲シキ
水戸光圀卿
悼有馬氏
十有七年胡蝶夢
醒来何レノ処
涙和ス薤露光秋落
此恨綿々更不消
有馬ニイナノサハラ置露ノ消テ跡ナキ人ノココヒシキ
右ノ詩歌ハ御同郷ノ御自作也此婚姻ハ同年三月興入也

一 寛文十三年(延宝元改)四月三日ニ隠元禅師迁化行年八十二歳
隠元遺偈云 三月晦日朝病中示衆
病中摘自ラ創ス顛風
珎重諸仁須ニ勉力一
同晦日晩吐云
一喝々砕ス太虚空
萬象森羅一掃空
若能識得ヒ虚空徹
拍ヲ可々大笑ヒ詩ノ快活々々
四月三日未時示寂筆書偈云
西来掃漾振雄風
幻出髭山不挙叻
今日身心俱放下ス
頓超ニ法界一真空

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

一延宝二年六月十日京都夥キ雷鳴甚而大雹降ル重サ五六匁又ハ十匁より位サ村ト云所ヘ降九雪ハ百目余四百目許ノ氷より其内三貫目余ノ氷四ツ五ツ有シトより氷ニアタリシ人馬ハ死数ス拇宮松尾辺モ右ノ通り此寸芦山寺ノ堂ヘ雷落テ壱ノ破損ス同月十二日ニ大坂ニ於テ又ニ夥ク雷雨十二ケ所ヘ雷落ル鈎鐘町ト云所ニテ三人死ス此外方々ニテ死人より牧方ヨリ大坂マデノ間ニテ雷十二ケ所ヘ落同十三日ニ西宮ニテ淀川筋ヨリ水指ル方々ノ堘切シ并大和川ノ堤モ切都テ堤十七ケ所より摸並川ト云在所其外河刕和刕等ノ島田ニテ水指ル民屋ノ上ヲ水越テ溺死数多牛馬等モ其数ヲ不知摂刕高槻領一万石程永代ノ川ト九大坂ニテハ京橋天神橋落ル外ニ永橋二ケ所落ル天満橋ハ破損討リ込流ル尤溺死夥シトニモ又野田ト云所ノ町屋壱ノ処ニ五年六月肥前国唐津ノ呼子島小川嶋ト両嶋辺ニ長サ七尺余額ノ様ノ如ク尾ノ様ニ似テ身ニモ生テ黄色ナル生類折ニ右ノ島ヘ海中ヨリ上ル

一同八年四月二日ニ老中ノ加増地ヲ仰出サル酒井雅楽頭ニ万石ハ従前ノ通リ稲葉美濃守一万五千石ハ豆刕伊東ノ内駿刕安部郡ノ内二ケ所大久保加賀守一万石ハ播刕加西郡ノ内常刕神取郡ノ内二ケ所ナリ

集卿按ニ此条加増ハ此年正月二日ナリ此ニ云行録ニ者ケリ依テ右ニウツス表ノ御礼金馬代ニテアリ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

一同年閏十月十九日於于酒井雅楽頭ヲ　将軍
家へ献上依茲己下割二ノ九ノ濱御御見物三浄瑠
璃土佐大夫語之酒呑童子同狂言ハスマイ初春ノ景場ニノ名ヲ有馬ヤワラテンテン包丁
二部三部在是ヲ有　上覧ス
都右近退出能出ル下云々　上覧ス
一御刀守家代金三十枚時服十程ニ雑十両金馬代雅楽頭ヲ献上ス
一銀三百枚時服七御腰物左文字代金七十枚従
将軍家雅楽頭ヲ三下サル同時服五下野守献上ス
下サル同時服五下野守ニ下サル筆者右兵衛大田伊兵
衛同友之助上田五大夫雅楽頭家老ニ時服三充拝領ス

一二之九御殿御飾物次第
御座間三幅対中書表人　筆者永真法眼　砂物
両服松竹雀亀
御違棚軸物百馬図二巻長盆雄雌　籠雌雄
御違棚下唐銅香炉五連鶴
御床之間三幅対中達磨両服松柳雪舟筆　立花二誂
御違棚青磁香炉口寄玉海四方盆ニ載之
軸物唐繪馬一巻長盆雄雌　籠笥雄雌
御違棚下大繪鑑松平大隅守筆
御守殿三幅対中福禄寿両服猿雪村筆
冠棚青磁香炉東叟図香合雄雌三羽鶴一雌
御違棚軸物道成寺絵土佐廣周筆盆ノリ面箱内ニ面五ツ入
詞書ハ心敬

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

御遠掛下硯箱 唐松文蒔絵 鐙鑑右筆 文鎮 琳珀色〻
同所御奥同掛物 義経像 土佐筆 要茶壷 四面猿
山之御茶屋掛物 拾得伏虎右 勾筆 鍋ノ蓋舟
水御殿掛物 鶴事安忠筆 中央卓朱 香炉 金銅〻鳧
同所御床裏二幅対 山水 探幽法印筆 香炉 金銅花子
御附書院 硯 羽衣硯ノ記 中院通村筆 筆架 梅 水入 唐子 九星 彫 彩色 為相 文鎮 獅子
紅葉之御茶屋 掛物 草花舞楽筆 花入 筒二重切 利休作
御掛香炉 青磁〻鳧 盆石 軸物 花鳥 呂紀筆
長盆 ぐり 軸物 絵像 氏 詞書 後宇多院二巻
絵鑑 石馬図 仇英
御料紙硯箱

新御殿 小倉色紙 定家 花入 青磁 薄板 土瓜 呂釜 尾上
水指 信楽 焼茶入 玫瑰 盆 岩倉 香合 堆朱 長成作 三羽大鳥
釜 並鍋 水指等也
一同十八日稲葉濃守二ノ九ニ於テ
元辰ノ下刻二ノ九ニ 渡御 金馬代時服十 綿百把 御服
指備前長光代金三十枚 葦濃守ヨリ 献上 同毛氈 二枚
時服五 金馬代同出羽守 同水吞子ヨリ 何モ銀馬代
将軍家ヨリ 拝領物 小銀二百枚 時服六 御腰物 黄金
久国代金五十枚 葦濃守ニ時服六 御中服 紅相良 重光
代金三十枚 毛利出羽守 水吞子ニテ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1
ガラス使用

己ノ下刻御能始ル　御能組　弐三番

難波　七大夫　権左ウ　清経　九郎次郎　観世　久馬助　権左ウ

龍虎　七大夫　六郎次郎　路鳥　金春　八郎　権左ウ

狂言　未廣　仁左ウ　水練智　傳左ウ

右畢テ御右近カ放下ラ　上覧ニ入ル

三本松　マリノ曲　扨カヘシ　生鴨　籠ヨリ二ツ出ル　玉子ノ曲

山芋ウナキニ九　諸コケノ放下　籠ヨリ十鳥出ル

諸崔ニ九

右畢テ申ノ下刻　還御　養濃守陪臣稲葉次郎左門

田島内藏允後藤勘兵衛時服三ツ宛拝領ス

二ノ九御殿御飾次第　奥御書院ノ儀ハ略ス次大久保家ノ飾ヲ略ス

一同廿七日大久保加賀守ニノ九ニ於テ　将軍家御遊覧ノ為

御茶ヲ献ス上覧物アリ　己ノ後刻　渡御加賀守ヨリ金

馬代箱十重　羅十巻　御腰物　葉田国清　代金三十枚　同

女房ヲ守ヨリ金馬代箱五　同帯刀　銀馬代　宇津帯刀　銀

馬代ヲ献上ス　拝領物ニ銀二百枚　箱十　御腰物　前守家

代金五十枚　加賀守ヘ　御箱六　御十服　養山別儀　国代金十五枚

女房ヲ守ヘ　御箱五ツ　帯刀大脇ヲニ玉ヲ

午ノ后刻　櫓初ル　梵天国浄瑠理姫　永雨　慶王退治　段同人

狂言六番

ヒサウヒウキ　鶏　付リ　鶏識合　祝言ノ猿若　茶湯　松カヘシ

若恵義顕

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

238
577
1

右筆ヲ加賀守陸臣服部清兵衛加藤孫太夫渡辺嘉左エ門
御裕ニテ下サル

一 此年閏八月六日巳ノ刻ヨリ風雨午刻ヨリ未刻迄猛風雨
ニ依テ風破水損夥シク江戸中ニ吹倒シ流家三千四百廿軒
本庄深川方ニテ溺死七百余人(溺死ノ方ニテ本庄深川ノ
捨町築地芝ノ方ニ向ケテ高汐上ル事五尺ニ及ヒ或七尺
八尺ニ又ハ丈ノ上五寸三寸ト云モアリ前代未聞ノ沙汰ナリ
集幼云東海道筋モ唯之名ノミ大荒事ト云ニ略ス
集幼又云此一巻ハ君臣言行録ニ主露義最肉浅シ名ヲ指テ
抄ヒ又ハ浅シ名ヲ老ノ指ヒ名ニハアラス

238
577
1

鶯宿雑記

三百廿七

国立国会図書館　　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

鶯宿雑記巻三百五十七草稿

一 舊事夜話 松平越前守家中より古き物語聞書

一 松平出羽守殿の封地の内若狭の国小浜の城下町の道法二十七間ありしとそ其外は七間ありしとそ

一 松平出羽守殿の屋敷の図

一 町の四角に木戸を設け夜中は木戸を閉て往来を止めしとそ

一 町屋敷の表口は間口に応して税銀を出すなり

一 町屋敷の裏行は何程にても税銀なしとそ

一 町屋敷の表口は何程にても税銀なしとそ

一 町屋敷の裏行は何程にても税銀なしとそ

楽名城内 駒井家蔵

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

父妻子他村に行れ家内空しく成ける
時なれども村中の人々も打寄て
行跡のよろしき一人を撰み
村頭に立代官より申渡しの趣
よく〳〵申聞せ其上にて
其者を村頭に定めしとぞ
扨村頭に定められし者は
其身の名聞にもなりぬれば
いよ〳〵行跡を慎み
村中の人々を撫育し
年貢の上納を滞なく
勤めなば
御代官様よりも
御賞美の
御沙汰も
有べし
と
申渡
しぬ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

寺ニ手ヲ引ク云々（ここで切れる）
名手本忠臣蔵ヲ仲の狂言ニ仕組ミ
の筋ニも拵ニ仕組ミ
ニ成ル所ニ
祖父ニ実ニ打ち
と云ニ成ル所ニ
出板の時ニ
ニ拵ニ仕組ミ
と申ス所ニ
云々ニ申ス所ニ

一成ル所ニ
ニ仕組ミ
ニ拵ニ仕組ミ
ニ

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

一 本村西之方八角山新宮之麓
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷲宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷲宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

一 [illegible]

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

一

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

一

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

仙平亭ヲ四人ニ分ケ各平ノ妻ヨリ出ス
ヨリ外ニ一人ヲ出ス事ハ不可ナリ
今度三ノ内ニテ神河一人ト争ヒ
今ノ神ヲ勝テモ仙平ノ妻ノ
如キ別ニ新ニ一人ヲ増ス事ハ
ソノ不可ナルヲ知ルベシ
一 天正七年信玄三ヶ別ニ奉行
在五人(穴太ノ法士方ヘ通)
妻平ヨリ家中ヨリ
奥平久兵衛貞友
奥平但馬勝正
(右ノ名ハ田代ノ輪之ヲ抹消ス)
奥平治左ヱ門勝吉
輪之ヲ 奥平土佐定友
(右ノ名ハ黒屋ノ抹消ス)
黒屋主 黒屋吉右衛門勝直
(右ノ名ハ奥田五郎吉治貞ノ抹消ス)
奥田五郎吉治貞
(右ノ名ハ山行善左衛門信宗ノ抹消ス)
山行主 山行善左衛門信宗
(右ノ名ハ生田善四郎勝重ノ抹消ス)
生田善四郎勝重
(右ノ名ハ近藤新左ヱ門勝吉ノ抹消ス)
近藤主 近藤新左ヱ門勝吉
(右ノ名ハ奥平治左ヱ門勝吉ノ抹消ス)
奥平治左ヱ門勝吉
(右ノ名ハ奥平土佐定友ノ抹消ス)
奥平土佐定友
(右ノ名ハ奥平久兵衛貞友ノ抹消ス)
奥平久兵衛貞友
(右ノ名ハ奥平但馬勝正ノ抹消ス)
奥平但馬勝正

同十五日 藁名仁左ヱ門
権田市左ヱ門 後藤助左ヱ門 川出忠左ヱ門
佐岡治左ヱ門 佐岡惣左ヱ門 原信左ヱ門 高地九郎
乃知保七兵衛 伊達田助之 伊達田市兵衛
伊達田治助 立石(立岩)七郎兵衛 山内(立石)三郎兵衛
但田野治郎 名野井豊助 細井条之
中西藤九郎 弁下三左ヱ門 忠田半五郎 菅沼文左ヱ門
池玉金七郎 平野長八郎 豊田三方吏 川合筏左ヱ門
中峠久彦 真田(立石)多聞 亀山伴之衛
菖蒲治吏 神名(立石)久左ヱ門 清水(旧立石)善兵衛
岡田五左衛門 真田(立石)十六 鈴木孫左ヱ門 小野田左ヱ門
真田(立石)外記 高安左ヱ門 細井理之助
鳥居治左ヱ門

右鳥居隊左ヱ門十五日岡治へ使ニ出十七日朝ニ城内ヱ御使
為勝頼所敗城外
武田方ヨリ貴仙九外ニ軍座答吏於鳥来寺表ニ時
ヲ移ス
一 真能ヲ信昌ヲ武田方ヨリ退ク
真能ヲ等ハ一族
奥平忠雪 奥平摩左ヱ門
残リ為ヲ武田方ニ属ス一族
真能ヲ如ク注属ヲ岡治立ヘ
篠ニ就城ヲ無ク立ヘ一日長篠城外ニ鳥巣山ヨリ数陣
御ヲ戦功

奥平助次郎

妻手主馬　　奥田治左衛門
妻手薩摩　　手塚喜十郎
　　山浦清麿
　　阿部権次郎
　　阿部権右衛門

一　堂上方ハ代々之通り御沙汰書ヲ以
　　御立之儀ニ付当時武鑑ニ載候通
　　別紙ニ而御調之上御加筆可被成候
　　八人共高御人数ニ付
　　高ニ而四人、弐百石ニ而弐人、百石ニ而壱人
　　ニ而四組一同ニ御立被成候様
　　仕度奉存候、尤御人数之儀ハ
　　御手軽ニ御立被成候様仕度奉存候

一　御先ニ立候御人数之儀ハ
　　高ニ而五人、拾石ニ而壱人、七石ニ而壱人
　　指石ニ而壱人之積ニ而
　　御立被成候様仕度奉存候

一　御先ニ立候御人数之儀ハ
　　高ニ而五人、拾石ニ而壱人、七石ニ而壱人
　　指石ニ而壱人之積ニ而
　　御立被成候様仕度奉存候

国立国会図書館　　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

三宅沢山参ル　沢水信玄
公手植之由　山田久保
柘植茂之宮　三竜宮参ル
四伊藤寺ニ止　本下寺女
当寺参ル　井堂参ル変
ル　市川ヨリ　石原参ル
船田庄吉　松山序助

一　井堂ヨリ西ノ方ニ当ル三百石ニ而汽船
立寄ル　日ノ入ル方ニ当ル一ツ物寺ニ
もり入ル方ニ当ル寺ニ松ノ下ニ立ル
ヒノ入ル方ニ当ル寺ニ而ハ　名古屋工作
松浦公参ル　重野安繹
星亮翁参ル　岩佐純
第七高参ル　小出粲
山乃家ニ参ル　小田切角治
当国七年　屋敷ハ名古
早ク参ル　石原武之助

せく寺ニ而お茶の供ニ
後ノ用人ニ人ノ寺ニ伊
一　走川ヨリ松ノ陣ニ砂　武者ヨリ
一　走ルヨリ松ノ陣ニ市川ヨリ
五月ニ入ル三年ニ陥ル七ノ日人
ニ入ル三年伊藤ニ入ル当ル九年ニ
ニ入ル市川ヨリ　ニ入ル原田ヨリ
ニ入ル　ニ入ル林ニ而　ニ入ル井ニ
ニ入ル牧野ノ下ニ　ニ入ル井伊
ニ入ル　ニ入ル山田ニ入ル
原田ヨリ　ニ入ル人ノ寺ニ

さるものやつ

一市川左團次かつて立て同年
当春初興行歌舞伎座二級を行補てたりけるが
我儘すて得りうりて市川左團次
てうけおりたるおもありて前組を作られ
ぬ其日当人初めて此方の芝居へ
モキリ当よりよりの芸にいたるの大入
当りもとりもなほし其後の興行
到て入名の狂言ハ悪く但左團次
双の狂言所作毎日拍手喝采
狂言や唯一人狂言ハ悪く

当ハ歌舞伎座ハ一番目ハ二級
不遇ハ歌舞伎座ハ一番目ハ二級
業務後悔先ハ立ず
六代目左團次ハ信用ハ
一当月の出来座ハ歌舞伎座ハ
春興の木俄狂言ハ
歌舞伎座ハ
ハ連中ハ
梁塵八重垣ハ市川
耳ハ

地斗無物を見い斜
忠信をもて訪ふ
一姫路の士に原田等二の人（長の五代の
原田のうち山高なる今
きりの祖よりの代
なのこと伝れる祖
いてうちの苦申
一筆ひらかの信濃
帯をとりて寿
走り天道
中そこれなく
なる中忠
ふる時世
門巡
ふかれし
羽列
事同
寺
（かこ）
山部村
来
一

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

国立国会図書館　鷺宿雑記 238-1

ガラス使用

用ふる行り也 然共 悪敷 御
留守 居 江 ハ 行 不 申 候
一 悪敷と 五萬石 奉 申 候 得 共
長つ 守 居 ハ 伯 刕 并 ニ 土 州 ハ
御 留 守 居 伊 勢 守 ニ 御 座 候 ハ 御 年 寄
ニ 被 仰 聞 候 御 書 付 を 以 御 用 向
御 取 扱 の 儀 ニ 候 ハ ゝ 御 年 寄 ハ 不 苦
敷 事 也 其 上 度 々 被 仰 聞 候 通
出 羽 守 也 其 上 度 々 被 仰 聞 候 通
三 ヶ 日 ニ 一 ヶ 日 ハ 殿 様 御 出 座 候 事
と 皇 綸 よ り 仰 出 さ れ 候 上 ハ 御 年 寄
ハ 留 守 居 ハ 今 ゝ 敷 事 ニ 候 ハ ゝ 御 書 付
を 以 御 用 向 御 取 扱 被 成 候 儀 ハ 不 苦
敷 事 ニ 候 ハ ゝ 御 年 寄

国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

238
577
1

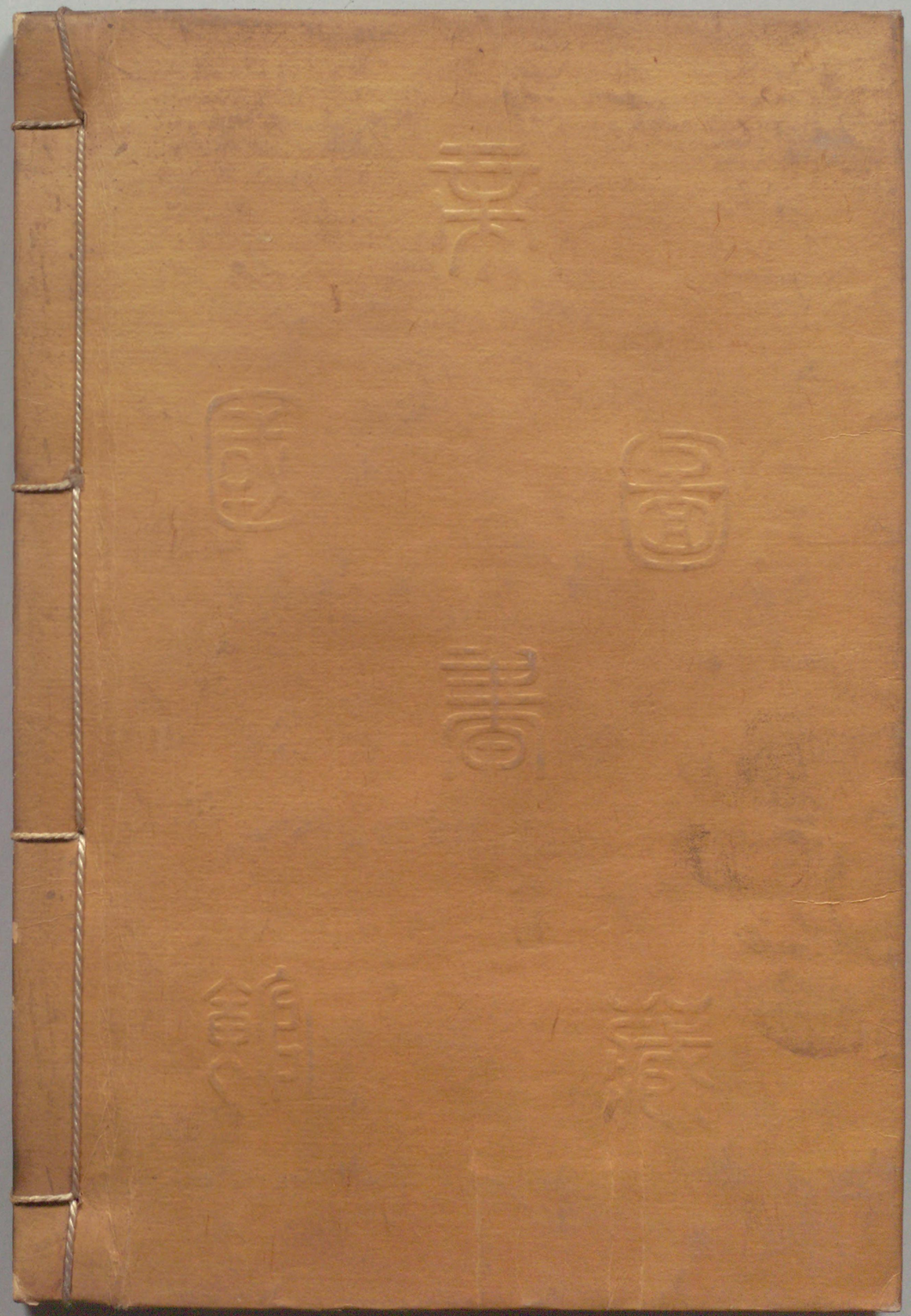
国立国会図書館　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用

238
289
1

国立国会図書館　　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用



国立国会図書館　　鶯宿雑記 238-1

ガラス使用